

## 平成 21 ( 2009 ) 年度「NGO 長期スタディ・プログラム」最終報告書

提出日：2009 年 3 月 17 日

### ・所属団体およびスタディ員氏名

特定非営利活動法人アルシュ（自立を支援する会）

小西 麻由

### ・受入れ先機関名（所在国）

La Fundación Ecología y Desarrollo（スペインおよびニカラグア）

### ・研修期間

2010 年 1 月 13 日～2010 年 3 月 14 日

ただし、研修期間中の 2 月 14 日～21 日には、修士課程卒業試験および博士課程入学試験のため、日本に一時帰国している。

### ・研修テーマ

太陽光発電（再生可能エネルギー）を用いた地域の自立支援のあり方を学ぶ

### ・研修目標

支援国は太陽光発電や再生可能エネルギーの導入に関するプロジェクトを行う際、どのようにプロジェクトを立ち上げ、実行に移しているのかを学ぶ。

現地で導入された技術（太陽光発電や再生可能エネルギー）が、その後どのように地域の人びとによって自立的かつ持続的に活用され得るかを学ぶ。

太陽光発電や再生可能エネルギーを用いた支援事業に関する、国際協力 NGO（特に事業規模の小さな NGO）向けの手引き書を作成する。

### ・具体的な研修内容

研修期間は、おおきく以下の 3 つに分けることができる。

すなわち、スペインでの研修（1 月 12 日～2 月 13 日）、ニカラグアでの研修（2 月 22 日～3 月 6 日）、再度スペインでの研修（3 月 8 日～3 月 12 日）である。これらの 3 つの期間はそれぞれ、上述した 3 つの研修目標と対応している。

以下、期間別に研修の具体的な内容について報告する。

スペインでの研修（1 月 12 日～2 月 13 日）

出発前に貴団体に提出した当初計画（「NGO 長期スタディ・プログラム研修計画（案）」）では、La Fundación Ecología y Desarrollo（以下、ECODES とする。）のスペイン事務所

にて再生可能エネルギー関連のプロジェクトに携わる予定であった。しかし、ECODES ではプロジェクト終了後、継続して活動が行われていなかったことから、具体的目標を一部修正することになった。

そのため、1月中の約2週間は、ECODES のプロジェクト資料を読んだり、職員から聞き取りを行ったりしながら、新たな目標の設定に時間を使うこととなった。そして、以上の過程から、新たに設定した具体的目標は次の通りである。すなわち、ECODES が「どのような理念のもとに、太陽光発電や再生可能エネルギーを用いたプロジェクトを実施しているのかを学ぶ」ことである。

2月の約2週間は、上記の新たな目標に基づき、研修に取り組んだ。具体的には、中南米地域におけるコミュニティ開発の一プロジェクトの道具として、どのような理念のもとに太陽光発電や再生可能エネルギーを用いているのか、という問いについて、職員からの個別の聞き取りや打ち合わせへの参加を通して、理解を深めていった。

その一方で、2月の後半から始まるニカラグアでの研修に向けて、現地で実際に見聞したいプロジェクトを選定し、それらの概要について事前の下調べを行った。なお、研修中には、ECODES の全プロジェクトデータに対するアクセスが許され、自由に閲覧することが可能であった。

#### ニカラグアでの研修（2月22日～3月6日）

ニカラグアでの研修は、次の2つに分けることができる。すなわち、エステリ県での有料講習（講座名：地域支援と再生可能エネルギー。期間：2月23日～26日）と、レオン県にある ECODES の中南米事務所での現地研修（3月1日～5日）である。

まず、前半の有料講習では、ニカラグアにおけるコミュニティ開発および再生可能エネルギー利用の現状に関する講義とともに、実際にいくつかの NGO が実施しているプロジェクトを訪れた。具体的には、当プログラムの申請時に有料講習を受ける団体として希望していた（その後、講習の開設時期の関係から、受講を断念した。）Grupo Fenix のソーラーパネル推進施設や、イギリスの NGO により資金提供を受けて太陽光発電による井戸の汲み上げ施設を設置したあるコミュニティなどを訪れ、関係者の方々から直接話を聞く機会を持った。

次に、後者の ECODES での研修では、現在進行中のプロジェクト関係者との打ち合わせに参加したり、実際にプロジェクトを実施してきた地域を訪れ、関係者の方々から話を聞いたりした。具体的には、太陽後発電を活用している様々な施設（学校、病院、ホテルなど）や、ECODES がコミュニティの持続的発展を目指してこの10年間で様々なプロジェクトを実施してきた地域や集落を訪れた。

#### 再度スペインでの研修（3月8日～3月12日）

ニカラグアでの研修後、研修全体のまとめの期間として、再度 ECODES のスペイン事務

所で研修を行った。ニカラグアで見聞きしたなかで疑問に感じたことなど、職員からの聞き取りを中心に確認する作業を行う一方で、帰国後、今回の成果をどのように所属団体に還元していくのかを検討した。

#### ・研修の成果

以下、本研修の成果について、先述した研修目標ごとに分けて報告する。

ECODES が、どのような理念のもとに、太陽光発電や再生可能エネルギーを用いたプロジェクトを実施しているのかを学ぶ。

これまで、ニカラグアでは、電気がない地域に太陽光発電を設置する様々なプロジェクトが実施されてきた。しかし、現在では、ECODES など一部の NGO 関係者や現地住民から、それらのプロジェクトが専門家による単なるの技術の“設置”に終わり、その過程に現地住民の参加や、その後のコミュニティの発展に貢献しうるような取り組みが企図されていないことに、疑問の声があがっている。

以上のような意識は、ECODES の活動を理解するうえで重要な点である。ECODES の特徴は、その名前の通り、「環境 (Ecología)」と「開発 (Desarrollo)」とを活動の柱にしていることにある。したがって、「コオペラシオン (cooperación) 部」(研修を受けた部署の名前) が担当している国際協力の各プロジェクトには、環境問題に対する明確な取り組みが必ず組み込まれている。

つまり、ニカラグアの例で言えば、太陽光発電を導入するプロジェクトは単なる電力化を達成するための道具ではなく、現地住民が自らの住む地域の環境問題を意識したり、さらには自らの抱える問題(環境問題や電気がないということもその一つである)の解決に向けて、彼らが変革主体となって知識や技術を獲得したりするための学習の機会として捉えられることになる。

そこでは、コミュニティの持続的な発展に資するような中長期的なビジョンのもとにプロジェクトが選定されていること、また、そのビジョンの背景には持続可能な開発の概念とも密接に関連する、環境問題という、プロジェクト選定の枠組みが存在していることがわかる。

コミュニティの自立支援を「環境」という枠組みで捉えるという視点は、再生可能エネルギー関連のプロジェクトを研修内容としていた点で当初計画より存在していたものであるが、現時点ではさらにその視点を発展させ、環境との関連性をコミュニティ開発において考慮すべき重要な活動の指針として理解するようになった。

現地で導入された技術(太陽光発電や再生可能エネルギー)が、その後どのように地域の人びとによって自立的かつ持続的に活用され得るかを学ぶ。

ニカラグアでの研修では、エステリ県での有料講習や ECODES での研修を通して、海外およびニカラグアのプロジェクト関係者や住民の方々から直接話を聞くことができ、当団体の今後の活動において、非常に有益な情報を得ることができた。

ただし、ニカラグアにおいて見聞きした、再生可能エネルギーを用いた多くのプロジェクトでは、導入された技術は地域の人びとによって“消費”されてはいるものの、コミュニティの持続的な発展に資するような、地域住民による自立的かつ持続的な活用は見られなかった。例えば、ある関係者の話によると、ニカラグアでは、特にここ2、3年で太陽光発電の市場は急速に成長してきているが、それは必ずしも好ましいものではないという。なぜなら、それらのプロジェクトの最大の受益者は、部品を提供する営利目的の会社であり、一方で太陽光発電を技術的に扱うことのできる専門家がニカラグア国内で育っていないという現状があるためである。

つまり、少なくともニカラグアの文脈においては、それぞれの関係者が太陽光発電に関するプロジェクトの方向性を新たに模索している段階にあるように思われた。したがって、この問いについては、今後の課題として残されたことになる。この点については、ECODES や既に同様のプロジェクトを実施している他の日本の NGO から情報を得たりしながら、今後も継続して取り組んでいくつもりである。

太陽光発電や再生可能エネルギーを用いた支援事業に関する、国際協力 NGO (特に事業規模の小さな NGO) 向けの手引き書を作成する。

先述の通り、 の目標を十分に達成できなかったため、研修中に手引書を作成することは、残念ながらできなかった。しかし、この課題については、 の課題と合わせて、今後も継続して取り組んでいく。そして、その一段階として、今年の夏頃に再度ニカラグアを訪れて調査を行うことを予定している。したがって、今回の研修を端緒に、その過程で得た、同様の課題に取り組む海外やニカラグアの NGO とのネットワークを活用して、手引書を作成していくつもりである。

#### ・本研修成果の所属団体への還元方法

現在、既に決定しているものとしては次の2つである。

##### 研修の報告会

所属団体が定期的で開催しているセミナーにおいて報告会を行う。現在のところ、時期は5月中を予定している。

##### 手引書の作成

今回の研修中に得た成果と、今年の夏に予定しているニカラグアでの調査で得られた情報をもとに、来年度中に手引書を完成させる。

・写真資料

ECODES 事務所



コオペレーション部の部屋



ニカラグアでの聞き取り調査 ( ECODES )



ニカラグアでの有料講習 ( エステリ )



ニカラグアでの有料講習、 Grupo Fenix の太陽光発電推進施設にて

